

令和2年度 釧路川源流部の利用・保全推進事業
活動計画スライド説明

てしかがえこまち推進協議会
エコツーリズム推進部会

<1 ページ>

釧路川源流部の利用・保全推進事業 活動計画

<2 ページ>

釧路川源流部は多くの体験事業者や釣り人、カヌーイストなど、レジャーによる利用がされています。体験事業者のほとんどは「釧路川源流域ネットワーク」に所属し、利用モラル・ルールを共有していますが、一般客には利用ルールは周知されておらず、体験事業者間でもルールの認識に対して個人差があるのが現状です。また、弟子屈町は平成28年に国より「てしかがスタイルのエコツーリズム推進全体構想」の認定を受け、モニタリングの実施などを定めていますが、体験事業者が日々の業務の中で扱えるもの（河川沿いで観察できる動植物の数など）に限られており、水質や生態系などの調査・分析までは行えていません。こうした中で、近年一部の体験事業者から「(パドルの使用などによって)水草が減ったのではないか？」など、利用による環境への影響を懸念する声があがっています。釧路川源流部が今後持続可能な資源であるためには、適切な利用と効果的な保全が重要だと考えています。

<3 ページ>

● 釧路川源流部ごみ拾い（4月下旬～5月上旬頃）

観光シーズン前に体験事業者（釧路川源流域ネットワーク中心）で釧路川源流部のごみ清掃を行います。参加者にアンケートをとり、現状の問題点や課題、保全に関する意見などを集約し、事業者間で共有します。

● モニタリング勉強会（10月）

まずは利用者自身が、釧路川源流部の現状や他地域の先進的な保全活動を学ぶことで、環境保全の重要性を理解していただきたいと考えています。対象者は、体験事業者や地域の釣り人、周辺住民などを予定しています。テーマ（案）は、「屈斜路湖・釧路川の水質（講師：水質調査関係者）」と「利用と保全の両立に向けた先進地域の事例（講師：周辺の環境保全団体（釧路湿原や霧多布湿原など）」。

● 釧路川源流部ごみ拾い（10月下旬～11月上旬頃）

観光シーズン後に体験事業者（釧路川源流域ネットワーク中心）で釧路川源流部のごみ清掃を行います。今シーズンの反省や問題点を明らかにすることで、来年度以降の活動方針を検討し目標を定めま

<4 ページ>

団体の紹介 てしかがえこまち推進協議会 エコツーリズム推進部会

平成20年に設立した観光を基軸とした住民主体のまちづくり団体です。「誰もが自慢し、誰もが誇れるまち」を目指し、8つの専門部会で活動しています。全体構想は、国から認定を受けた「エコツーリズムを推進するために定める地域の指針」であり、弟子屈町は北海道では唯一の認定地域です。